

名実ともに「四国の玄関口」となる 交流拠点について

～四国・徳島県・鳴門市の新たな顔となるワクワクする道の駅～

鳴門市 企画総務部 戦略企画課

1. はじめに

鳴門市は、四国の東部、徳島県の東北端に位置し、本州と結ぶ四国の玄関口として、鳴門海峡に逆巻く「渦潮」や瀬戸内海国立公園などの心癒される風光明媚な自然、「なると金時」、「レンコン」、「大谷焼」、「わかめ」、など全国的にも認知された地場産品に恵まれ、また、四国八十八箇所霊場第一番・第二番札所、ドイツ兵捕虜によるベートーヴェン第九交響曲アジア初演の地も所在する、「おもてなし」や「友愛」の心が根付く、農業・工業・商業・観光・文化の調和のとれたまちとして発展を続けてきました。

しかしながら、近年、地域活性化、情報化社会の進展等による地域間競争の激化の中で、人口減少や少子高齢化は著しく進行し、地域経済や地域コミュニティの衰退等、様々な課題を抱えることとなりました。

また、本市は、四国・徳島県の玄関口に立地していますが、現在、本市の年間観光入込客数は、2006年の約300万人をピークに約3割減少しており、観光客や移動者による域内の消費行動の喚起という点で大きな機会損失となっている現状があります。

こうした課題に対して、全国的に認知度のある農水産物や、特徴豊かな加工品、自然、歴史、文化等の魅力的な資源を一元的・継続的に発信し、観光客にも地域住民にも親しまれる交流拠点施設を整備することで、本市の強みである「食」・「観光」・「農水産物」といったポテンシャルを一段と引き出し、地域に賑わいを作り、地域経済の好循環を生み出したい、という強い思いがありました。

そうした役割を担うべく、四国・徳島県・鳴門市の新たな顔となる交流拠点施設、道の駅「くるくるなると」が令和4年4月にグランドオープンとなりました。

基本情報

- 所在地 徳島県鳴門市大津町備前島字蟹田の越 338 番地 1
- 路線名 国道11号
- 登録年 令和4年
- 敷地面積 約18,000㎡
- 主な施設 情報提供・休憩施設、物販・飲食施設、子どもの遊び場 など



2. 道の駅「くるくる なると」のコンセプト

「くるくる なると」という名称は、渦潮を想起させるだけでなく、多くの方にお越しいただき、出会い、交流し、笑顔を地域に広げ、元気うずまく施設でありたいという思いがこめられています。施設は、本市で最も交通量の多い国道11号沿いにあり、神戸淡路鳴門自動車道、徳島自動車道、高松自動車道の分岐点に近接し、通勤・通学等の人の動き、購買活動や物流等の経済活動、地域間の交流・連携を促進する道路交通の要衝に位置しています。

こうした立地特性も活かし、四国・徳島県・鳴門市を訪れた方にとって必ず立ち寄る目的地となることを目指しています。

また、従来、道の駅は、比較的中高年層の方の利用が一般的ではありますが、本施設については、「まち」の活力となる感度の高い若い世代に訴求する商品やメニュー作り、地域特産物をモチーフにしたSNS映えするオブジェや遊具等の整備など、本市が誇る地域特産物を活用した「体験型食のテーマパーク」をコンセプトにしています。

若い世代の持つSNS等を通じた情報発信力・拡散力との相乗効果により更なる集客や賑わいを創出することで、多くの鳴門ファンの獲得に取り組んでいきたいと考えています。

グランドオープン以降、こうしたコンセプトのもと運営を進めてきた本施設については、訴求力の高い施設として、多くのTV・新聞・雑誌等によるメディア掲載が行われ、鳴門市の魅力を広く全国に伝える役割についても担っています。

「ここにしかないもの」(オリジナル商品)の販売と、四国・徳島県・鳴門市の特産品や加工品等について「豊富な品揃え」を行うことで、鳴門市に「また来たい」と思える空間と体験を提供できるよう、引き続き取り組んでまいります。

※ SNS映えや若い世代に訴求するオリジナル商品やオブジェの例



おいもあんぱん



鳴門金時パンケーキ



ぶりぶり鰯丼



鳴門金時オブジェ

3. 「ふるさと納税」事業と連携する道の駅

「ふるさと納税」については、近年、市場規模が拡大傾向にあります。令和2年度の全国寄附総額実績については約6,725億円、令和3年度の全国寄附総額実績については約8,300億円規模となり、地場産品の全国に向けた販売チャネルとして効果的な媒体の一つとなっています。

事業者との信頼関係の構築、地域の産品の発掘、商品開発やプロモーション等、「道の駅」事業と「ふるさと納税」事業には高い親和性があることのほか、返礼品における民間目線の導入やオリジナルの返礼品開発等、「道の駅」が「ふるさと納税」事業を行うことで、効果的・効率的な事業体制を確保できるものと考えています。

こうしたことから、道の駅「くるくる なると」が、リアルの店舗事業だけでなく、デジタル事業としての「ふるさと納税」事業も両立することで、「地産地消」のほか、全国の消費者を対象に鳴門の特産品や良いものを販売促進し、地域外からの収益を地域内に呼び込む地域商社機能をもった道の駅として、中長期の観点で産業振興の拠点となることを目指しています。

また、通常の店舗事業のみの「道の駅」と比較して、道の駅が「ふるさと納税」事業を行うことで、全国各地の消費者へのアプローチが比較的可能となるため、消費者にとっては利便性が向上します。「ふるさと納税」を契機とした本施設への来訪や、本施設への来訪を契機とした本市への「ふるさと納税」の実施といった相乗効果（※）を創出するのも事業としての狙いです。

※相乗効果

【道の駅に来た顧客】

「鳴門ブランドおいしい」→ふるさと納税により通販で買える→ファン化→再訪

【ふるさと納税の顧客】

「鳴門ブランドおいしい」→道の駅に行ってみよう→ファン化→ふるさと納税でリピート

地域産業活性化の新たな「鳴門モデル」の取り組みとして、交流人口だけでなく、EC事業である「ふるさと納税」事業も行う施設として、関係人口拡大にも寄与できるよう取り組んでいきたいと考えています。



ふるさと納税事業も行う道の駅



鳴門の特産品を全国に届ける

4. 新しい防災思想「フェーズフリー」の考えが根付く道の駅

フェーズフリーとは、「いつも」利用しているモノやサービスを、非常時の「もしも」のときにも役立てることができるようにする価値を表した言葉です。日常利用する施設や公園、サービスなど、日常の中

に溶け込んでいるものが自然と人の命を守る、また、安全性の確保に寄与している、道の駅「くるくる なると」はこうした新しい防災思想であるフェーズフリーの考えが根付く、シームレスな道の駅です。

道の駅「くるくる なると」におけるフェーズフリーの取り組みを幾つか紹介します。

① 施設屋上における子どもの遊び場、見晴らしデッキ、ジップラインの整備

屋上には、地域特産物をモチーフにしたオブジェ・遊具のある「子どもの遊び場」や、屋外の景色を眺めることができる見晴らしデッキのほか、アクティビティ機能の付与による集客コンテンツとしてジップラインを併設することにより、平常時は、施設屋上が憩いの場や交流・集客の場として機能することになります。

一方、施設屋上を津波避難場所にも指定しており、非常時は車両も含めて屋外から直接アクセスできることで、津波避難の受け入れ先となります。また、東日本大震災時の津波高の最大が約 15m 程度だったことも踏まえ、ジップラインも同程度の高さに設定することで、南海トラフ巨大地震発災時の津波浸水区域に位置する本市の地域の方への防災啓発を図るとともに、普段から津波避難場所を意識していただく工夫を行うことで、非常時の迅速な避難行動に繋げていきたい、という狙いもあります。

② 店舗内における豊富な品揃え

「豊富な品揃え」を行うことで、平常時における消費者の購買意欲の向上に繋げており、バックヤードにも多くの商品在庫を保管しています。

一方、非常時には、施設内の食料を始めとする商品を避難者へ配布することを計画しています。

食料や水を保管する防災倉庫を整備するのではなく、非常時には流通備蓄によって人命救助に必要な物資を供給する拠点となります。



避難場所になる子どもの遊び場
(多世代・地域間交流も促進)



豊富な品揃えの店内
(非常時には避難者への食糧供給を行う)

5. 終わりに

道の駅制度が創設されて約 20 年となりますが、今では「地方創生・観光の加速拠点」としての役割が求められており、元気に稼ぐ地域経営の拠点としての力を高めつつ、新たな地域の魅力づくりや地域デザインに貢献する役割が求められています。

四国の玄関口にある道の駅として四国や西日本を代表する道の駅を目指し、引き続き鋭意取り組んでいきます。

また、地域の皆様とともに、鳴門市の魅力、活力を全国へ発信できるよう、その役割を十分に果たしていきたいと考えています。